

会員数 59名
欠席者

 出席者24名・欠席者32名・免除会員10名
秋山恒・天野・麻田・和泉享・加内・松山・岸上・中野昌・曾川
大山・有家・福田・藤井・古川・後藤・飯間・稲田・川原・松村
大西信・尾崎・齋賀・塩田・橘・谷本・内海・横田-会員

前々回出席率

72.7% (11/24)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会長 和泉 清憲
幹事 細谷 誠
会報委員長 大西 信亮

お知らせ

- ∴ 12月のプログラム
 - 1 (No.1)-年次総会
 - 10 (No.2)-市民講座
 - 15 (No.3)-クラブフォーラム
 - 22 (No.4)忘年会
 - 29 (No.5)休会

∴ ニコニコBOX;なし

<ニコニコ会計累積/ ¥232,000>

∴ がんばるBOX;なし

<がんばる会計累積/ ¥117,000>

例会場・事務局

丸亀市塩飽町50-3 丸亀プラザホテル内

■会長挨拶

ロータリーの奉仕について「職業奉仕」という考え方があります。自身の会社の事業活動を通して社会に奉仕するという考え方です。昨今、「会社は誰のものか？」と問われると「株主のもの」という答えがある一方、他に「経営者のもの」「従業員のもの」「社会のもの」という答え方もあります。日本においてまた中小企業においては、会社が株主や経営者のものという一方的な考え方は少ないと思われ、「職業奉仕」という考え方は受け入れやすいように感じます。本日の市民講座につきましては、こういった考え方の延長線上にあるものです。行使の話から得た情報や知識を、より生活が豊かになる一つの材料としていただければ幸いです。

■例会事業:60周年記念事業市民講座 谷川淳二会員・石合由明会員

※紙面の都合上、後半の「相続と遺産分割(石合由明会員)」については12月22日号に掲載させていただきます。ご了承下さい。

「旅は人生を豊かにする」 谷川淳二会員

旅は人生を豊かにするというテーマをロータリークラブの先輩からいただき、個人的にも素晴らしいと思いました。しかし、旅を哲学的に考えたことはなく、目的地に無事時間通り到着できるか不安ですがどうぞよろしくお願いいたします。

まず自己紹介ですが、1972年高松市生まれの50歳です。琴参バスに入社し現在は琴参観光に在籍しています。32歳で結婚し、2女の父親です。浪人中の大学受験でのエピソードを紹介します。とある東京の大学受験を終え、友人と青春18切符といういわゆるドンコ列車5日間乗り放題(当時おそらく10,000円)チケットで四国まで帰ろうと試みます。試験終了後、時刻表を片手に東京を出発。その日の終着駅は四方山の岐阜県中津川駅でした。極寒と空腹の中、真っ暗な駅に着いた若者二人はまずは腹ごしらえができないかと食堂を探して歩きました。深夜近くで建物もまばらでしたが、1件のラーメン店を発見しました。足早に店に入ると店主らしき人からもう閉店ですが・・・と、事情を話すと一玉だけあったラーメンを二人で分け、ご飯やおかずをサービスしていただきました。一気にかき込みいくらすかど聞くといらんとのことお言葉に甘えその店を後にしました。駅に戻り段ボールで寒さをしのぎ、朝を迎えました。今思えば人生最初で最後の度だったのかもしれない。

ここで、「旅行」と「旅」の違いについてお話させていただきます。

旅:目的地までの過程を重視するもの、チャレンジ精神があり結果の見えないもの、自分探しの旅など、成就するか否かはあなた次第的な要素があり結果よりその過程が重要。

旅行:目的地への到達を重視するもの、観光スポットを見たり、おいしいものを食べたり、日常では味わうことができない「体験」というエンターテイメントを楽しむこと。昨今ではインターネットなどで手軽に観光情報を入手できることで事前にイメージができるため、ハードルが上がり、答え合わせの旅行になりがちです。

ようやく本日のテーマ人生を豊かにするに入りますが、旅行にはなぜ行くのか。統計によりまず観光地を巡り楽しむ、仕事を忘れたい、おいしいものを食べたい、歴史を感じたい、友人や家族と同じ時間を過ごしたい、テーマパークを楽しみたいなどが主な回答です。旅行中には、人の味覚・聴覚・嗅覚・触覚・視覚といった五感を心地よく刺激してくれます。日常を忘れリフレッシュ。また行きたいと思う欲求。教養が高めることや、団体行動の規律の構築も不可欠なものです。

(裏へ続く)

教わるという観点から行くと、修学旅行がその一つの旅行形態です。団体行動の大切さや、仲間を助ける思いやり、決められたルールを守ること、お金の使い方などです。人は旅をすると成長するのです。教養と癒しを得て仲間意識も芽生えます。一つ目の人生を豊かにするは、このように旅行者自身にフォーカスしてみました。

次に視点を変えて、二つ目は地域経済の話をしてみたいと思います。

現在、日本は様々な問題を抱えており、その一つに人口減少の問題があります。香川県の状況としては、1999年の人口103万人がピークでした。人口の年代別分布の大きな波になっているのが私たち団塊ジュニア世代とその子どもの世代です。以降、人口は減少に転じ、このままだと18年後には人口81万人と想定され、老年人口も高くなり、社会保障にも大きな影響を及ぼすとも言われています。2003年小泉内閣が観光立国日本「ビジットジャパン」を国策に掲げ、官民一体となりインバウンド誘致を積極的に推進し、500万人の訪日旅行者を7年後に1000万人を目指そうとしましたが、リーマンショックの影響で落ち込んでしまいました。アベノミクスによる円安が進むと2015年には1974万人を記録し、出国日本人旅行者を上回る結果になり、2019年には3188万人に伸びました。

しかし、2020年、誰もが予想できなかった事態に陥ります。当初新型コロナウイルスは対岸の火事だと思っていた私は、日ごとに襲い掛かってくる恐怖と不安の中にいました。結果、最悪の事態。旅行どころではありません。各種スポーツ大会、教育旅行団体、社内旅行などが動かない、動けない、日々が襲ってきました。報道では観光業界の疲弊ばかり。外国人旅行者は2020年には99.9%減の1700人に。香川県下の状況も例外ではなく、県内観光宿泊者数は2019年の50%以下に落ち込み、インバウンド訪日外国人にいたっては2020年の国際便全便運休により壊滅状態になりました。宿泊収入も2019年210億円が2020年には90億円に落ち込んでいます。2022年になり瀬戸芸などのイベントが開催され少しづつ日常を取り戻している感があります。

ここで、観光需要が起きるとどう影響していくのかを簡単に紹介します。旅行による経済の仕組みは、「消費者が販売店と契約する(最近ではWEB販売が主力)。販売店は提携事業者へ発注・契約。サービスの提供。」という流れになり、そこには様々な業界の数多くの人々が関わっています。観光業は、業界を超え様々な地域経済と連動し、地域活性化や雇用の創出の一翼を担っています。

まだまだコロナ終息とはなりませんが、県民割や全国支援といった観光需要喚起政策は、今なお賛否はありますが経済を回すという観点からも賛同せざるを得ない立場でもあります。現在の旅行割引についても説明させていただきます。

最後に皆様もぜひ旅や旅行に出かけていただき、地域経済にも貢献いただき、人生を豊かにしていただきたいと思います。

■会員自己紹介

和泉 享(いずみとおる)会員

【職業案内】

電気設備工事、携帯ショップ、道の駅の運営

【私の夢、やりたいこと】

道の駅の運営を通じ、地元の名物や観光資源を活かすことによって、多くの人を迎え地域の活性化に貢献したい。

